ホンダ
FR215

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたFR215ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた販売店または下記の**〈ご相談窓口〉**にお気軽にお申しつけください。

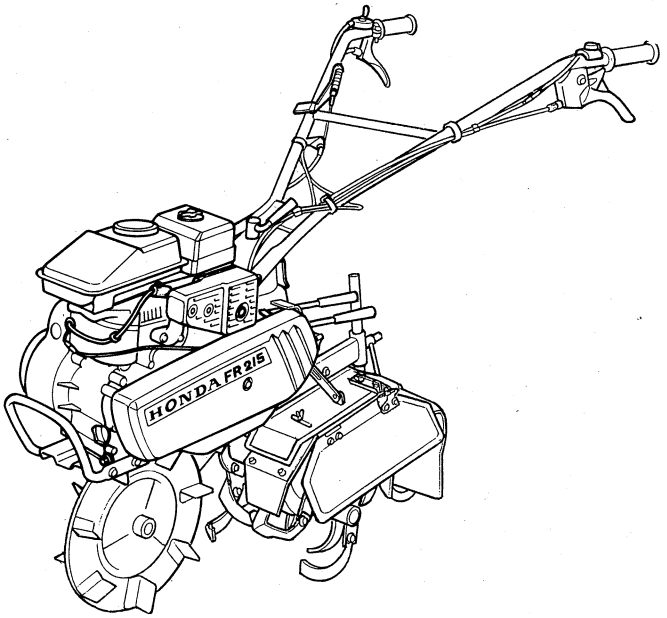
〈ご　相　談　窓　口〉

名　　称	電話番号	郵便番号	所　　在　　地
本田技研工業株式会社 お客様相談室	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1
本田技研工業株式会社 お客様相談室　北海道	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町２条10—2—29
本田技研工業株式会社 お客様相談室　仙　　台	022(288)6561	983	宮城県仙台市六丁の目西町1—10
本田技研工業株式会社 お客様相談室　名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4—22
本田技研工業株式会社 お客様相談室　大　　阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2—12
本田技研工業株式会社 お客様相談室　九　　州	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

ホンダ FR 215 は小型、軽量で汎用性に富んだ一輪管理機です。
安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしましょう。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。
本書は FR 215 K タイプを中心にまとめてあります。



トレーラ走行はできません
(小型特殊自動車の認定を受けていません。)

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4

各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 8

エンジン スイッチ ……10
エンジン回転調整レバー ……10
クラッチ レバー ……11
ハンドル上下レバー ……12
ハンドル固定レバー ……13
変速レバー ……14
始動グリップ ……14
チョーク レバー ……15
燃料コック レバー ……15
スタンド レバー ……16
駆動車輪取付けピン(K タイプ) ……17
ロータリ切換えレバー ……18
ロータリ ……19
サイド カバーの開閉 ……19
ロータリ カバーの延長 ……19
ロータリ カバーの開閉 ……20
抵抗棒 ……21
フロント カバー ……21
耕うん幅 ……22
耕うん爪の外爪と内爪 ……24
逆転時のロータリ ホルダ取り付け ……26

エンジンをかける前に点検しましょう ……27

ガソリンの点検 ……27
エンジン オイルの点検 ……28
空気清浄器(エア クリーナ)の点検 ……29
変速機オイルの点検 ……30

エンジンのかけかた ……31

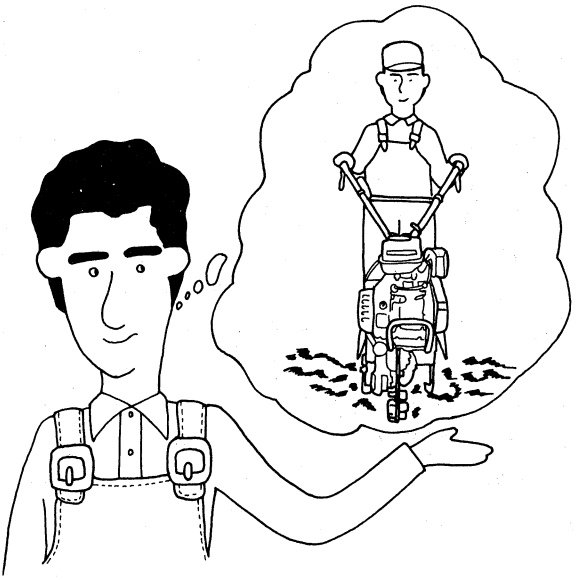
運転操作のしかた ……35

ロータリ ……35
1.ロータリ切換えレバー……35

変速 ……37
2.変速レバー……37
運転 ……38
3.クラッチ レバー ……38
4.エンジン回転調整レバー……39
エンジンのとめかた ……40
定期手入れを行いましょう ……42
日常点検 ……42
定期点検 ……43
やさしい点検・整備 ……44
携帯工具 ……45
エンジン オイルの交換 ……46
変速機オイルの点検 ……47
空気清浄器(エア クリーナ)の清掃 ……48
点火プラグの清掃、調整 ……49
燃料ろ過カップの清掃 ……50
エンジン回転調整ワイヤーの調整 ……51
ハンドル上下レバー ワイヤの調整 ……52
スタンド レバー ワイヤの調整 ……53
クラッチ ワイヤーの調整 ……54
駆動ベルトの調整 ……55
長期間使用しない時の手入れ ……57
故障のときは ……58
主要諸元 ……59
保証書

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

ティラーは正しく取扱ってください。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



●安全のために知っておきたいこと

★日常点検、整備を忘れずに。(本機を上げて点検する場合は、必ず転倒防止を行ってください。)

★火災の恐れがある場所では作業しない。また格納の場合、火の気のないところにおくなど火災予防に十分注意してください。

★子供を乗せたり、近寄らせないこと。

★工具を正しく管理し、正しく使用する。

★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する。

★ガソリンが漏れないよう、車載運搬時には燃料コックを閉じる。

★本機を離れる時は、エンジンを停止する。



●作業を始める前に

★必ず点検、整備を行う。

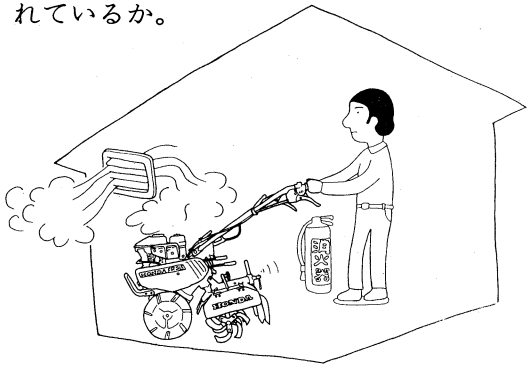
・点検作業は、通行の妨害及び危険等のない平坦で安全な場所で行う。

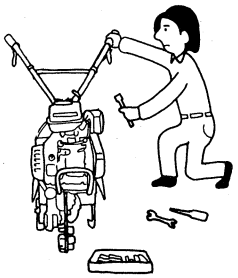
・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまって中毒の危険があります。

★防護装置の保全

・防護装置は正しく取付けられているか。

・点検、整備のため取外された防護装置は正しく取付け、確実に締付けられているか。





●作業中の注意

★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。

★傾斜地では、転倒を防ぐため速度や旋回などに十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。

★作業場への出入り、溝または畔越えを行うときは、アユミ板等を使用してください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなく危険です。

★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。

★土塊や石などがとび散る作業においては傷害に注意する。

★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行う。

★休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定する。

★ガソリン補給時、必ずエンジン停止、火気厳禁。

・ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。

●作業が終ったら

★次の作業のために機械の点検、整備を行う。

★作業機の取り外しは、平坦で安全な場所で行う。

★トラック等への積降ろし時は、転倒や落下に注意する。

(ロープを掛ける場合は、カバー類にはロープを掛けないでください。カバーが変形します。)

★洗車時には空気清浄器(エアクリーナ)のカバー締付部付近、電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。これらの部分に強く水をかけると内部に水が浸入し、本機不調の原因となる場合がある。

★保管は、安定した場所で安全な状態で行う。

・必ずスタンドを接地させて置くこと。

★エンジン上部に物をのせるのは厳禁。

・特にマフラ(消音器)は熱くなっているので、可燃物は絶対にのせないでください。

★屋外に放置する場合は、エンジンが冷えてからボディ カバー等をかけ、本機に雨水がかからないようにする。

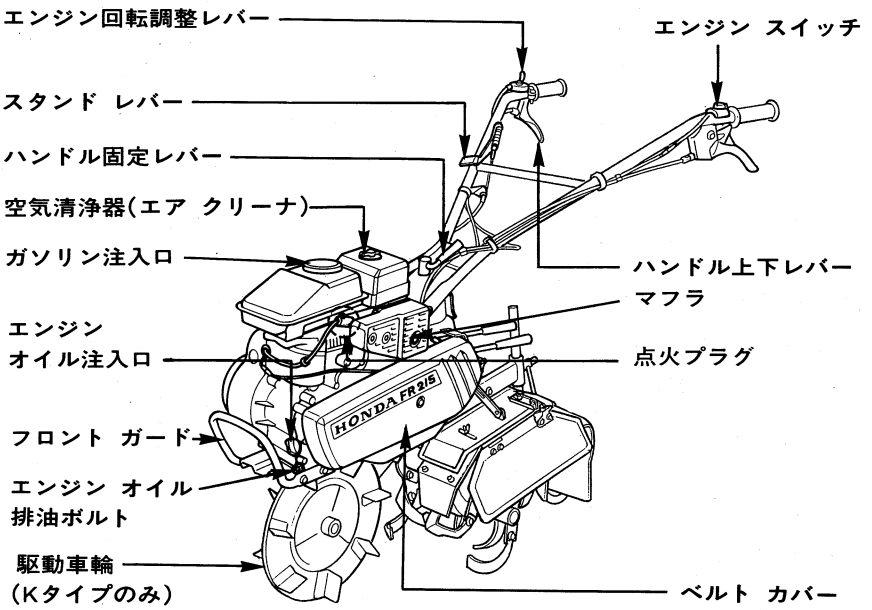
●運搬要領

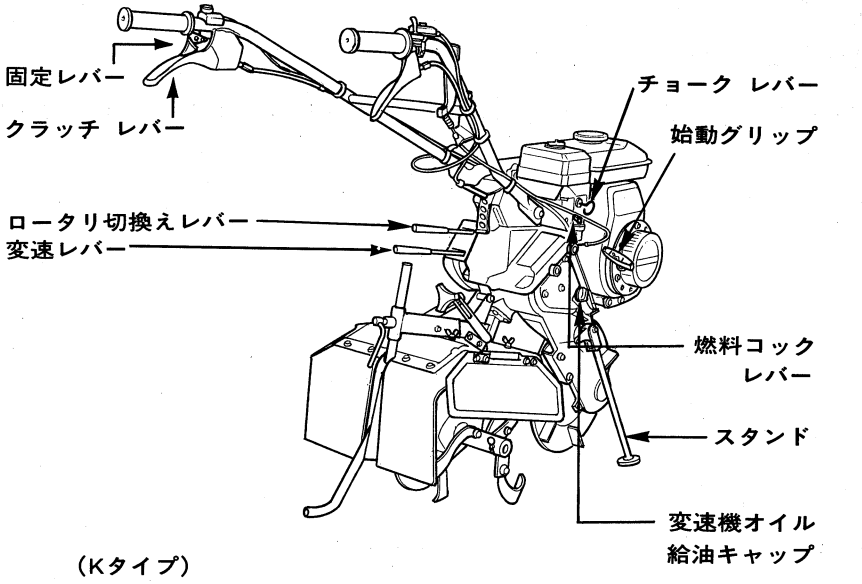
1.運搬するときはロータリの抵抗棒を自動車の床より浮かせ、ロータを床につけ安定させます。

2.ロープ掛けの位置

フロント ガードと抵抗棒をロープ掛けし固定する。

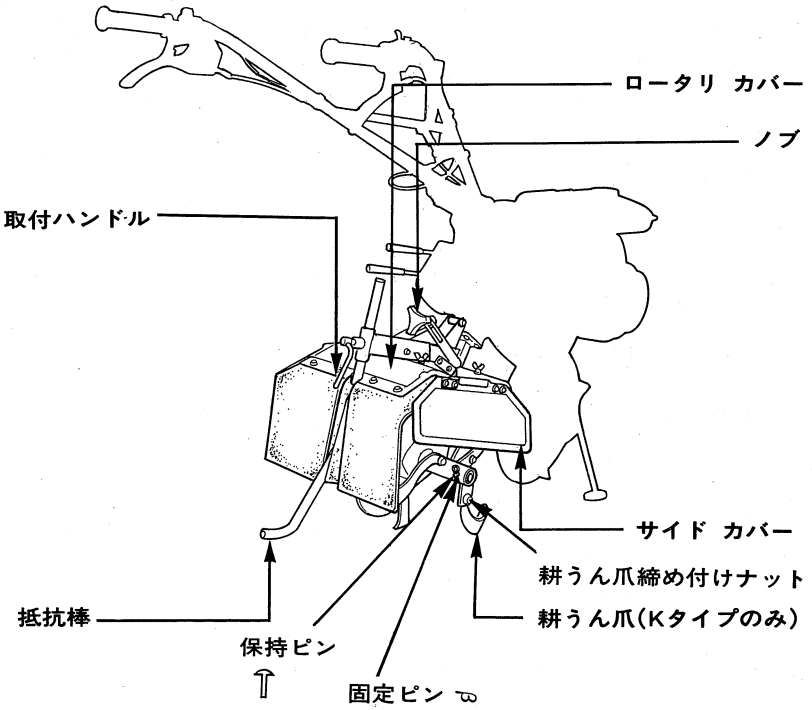
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう





(Kタイプ)

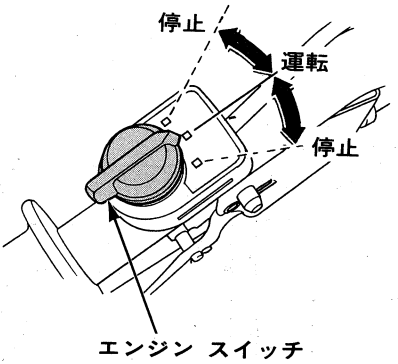
ロータリ部


ロータリ カバー
ノブ
取付ハンドル
サイド カバー
耕うん爪締め付けナット
耕うん爪(Kタイプのみ)
抵抗棒
保持ピン
固定ピン

(Kタイプ)

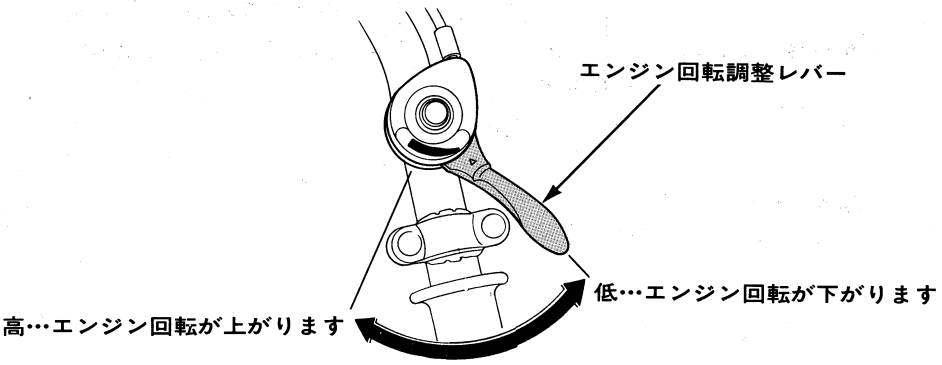
エンジン スイッチ

スイッチは、エンジンの運転、停止をする時に操作します。



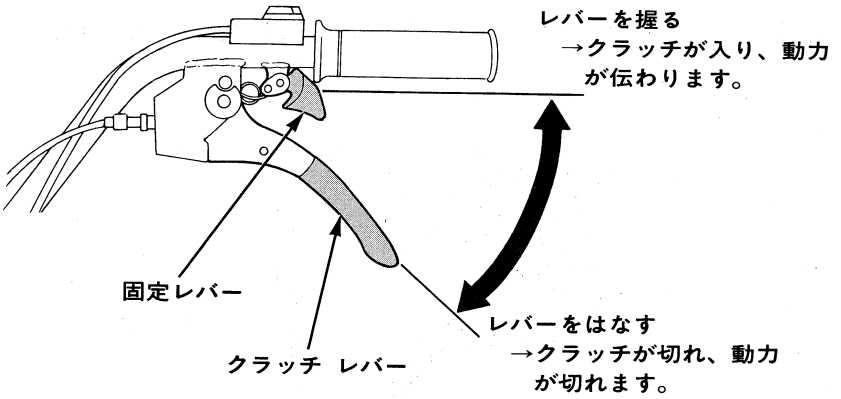
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。

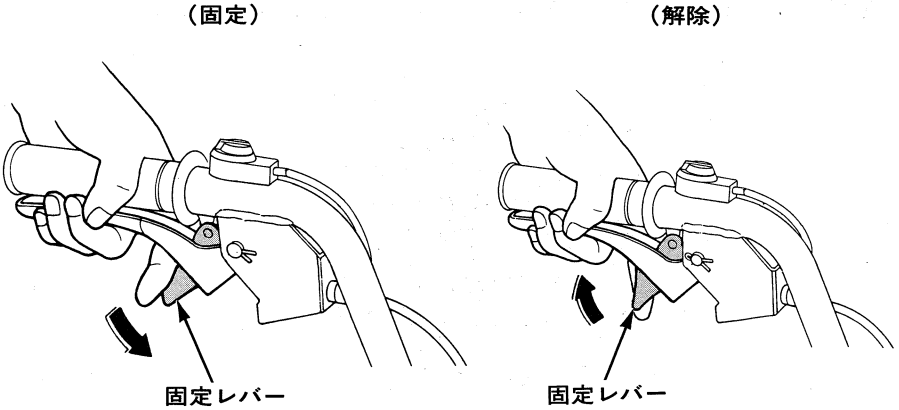


クラッチ レバー

クラッチは、車軸、ロータリ軸への動力を断接する装置です。



- クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、固定レバーを手前に引き、クラッチ レバーをはなします。

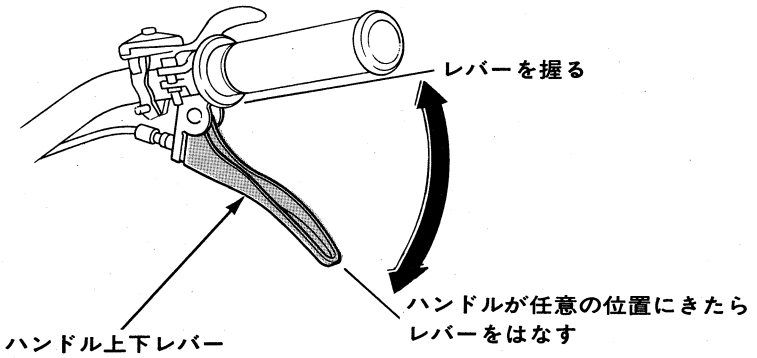


ハンドル上下レバー

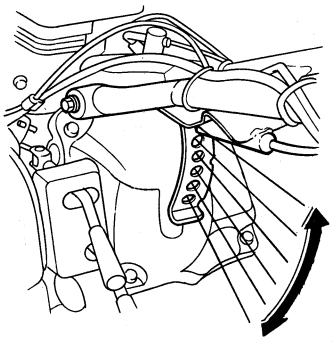
ハンドルの高さを調整する時に操作します。

《調整のしかた》

ハンドル上下レバーを握り、ハンドルを上下させる事により6段階に調整できます。作業しやすい位置にハンドル高さを調整してください。

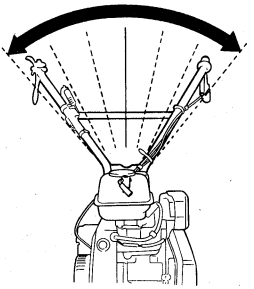


●ハンドルは**"カチリ"**と音がする位置で固定してください。
固定されているかハンドルを軽く上下に動かして確認してください。



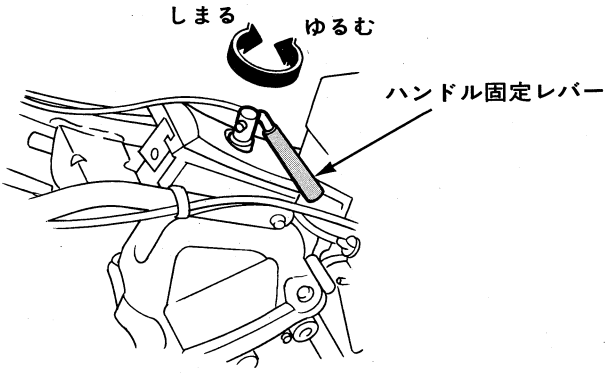
ハンドル固定レバー

ハンドルの角度を調整する時に操作します。
角度は左・右それぞれ3段階に調整できます。



《角度調整のしかた》

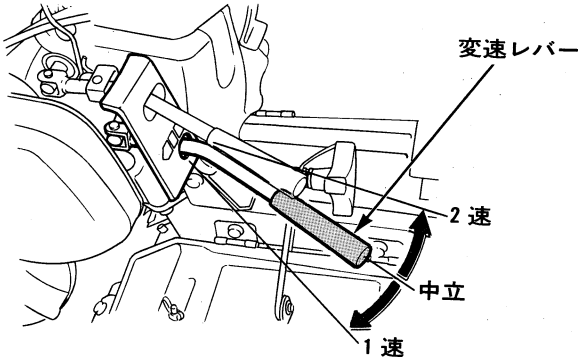
固定レバーを3回～4回まわしてゆるめ、ハンドルを任意の位置に合わせ固定レバーを締め付けます。



注意　調整後はレバーを十分に締め付けてください。
ゆるんで思わぬ時に動いて危険です。

変速レバー

ティラーの速度を変える時に操作します。
変速は、前進２段と中立です。



始動グリップ

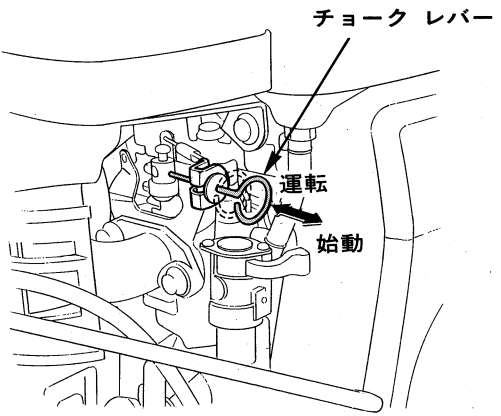
エンジンを始動する時に操作します。



注意
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

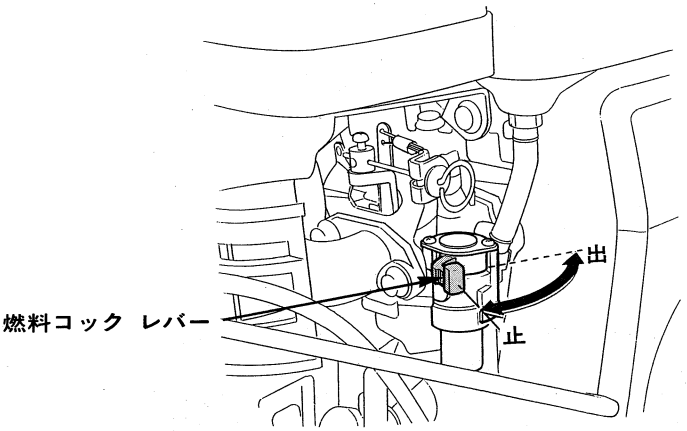
チョーク レバー

エンジンが冷えている時、またエンジンがかかりにくい時に操作します。



燃料コック レバー

燃料タンクから気化器までの燃料通路を開閉する時に操作します。
操作は確実に**"止""出"**位置に合わせます。

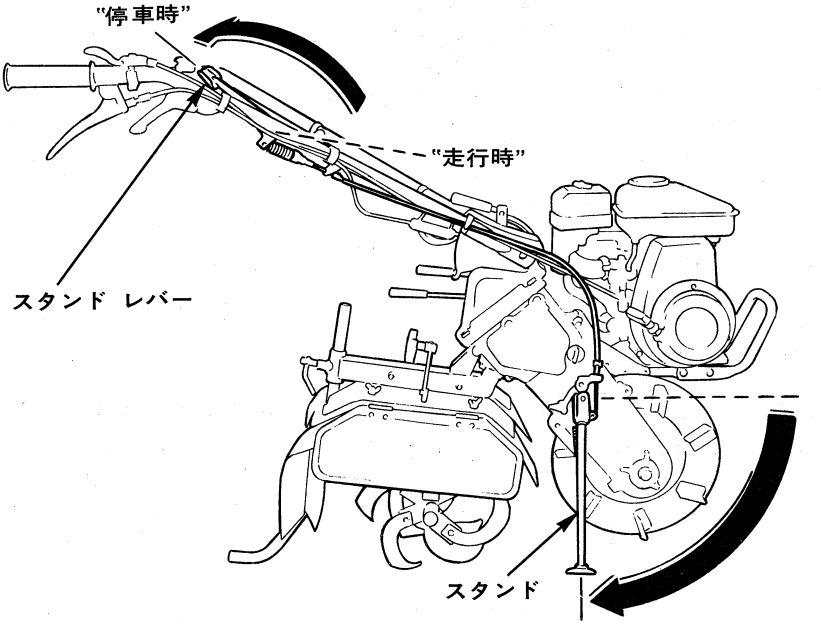


スタンド レバー

スタンドを使用する時に操作します。

スタンドを使用する時→スタンド レバーを**"停車時"**位置にする。

スタンドを使用しない時→スタンド レバーを**"走行時"**位置にする。



注意

・スタンドを使用する時は平坦な場所で使用してください。
・作業中はスタンドを使用しないでください。
使用すると石等にひっかかりハンドル操作に支障をきたします。
・スタンドを使用する時は必ずスタンド レバーを"停車時"の位置にし、スタンドが停車の位置になっていることを確認の後使用ください。
倒れる危険性があります。

駆動車輪取付けピン

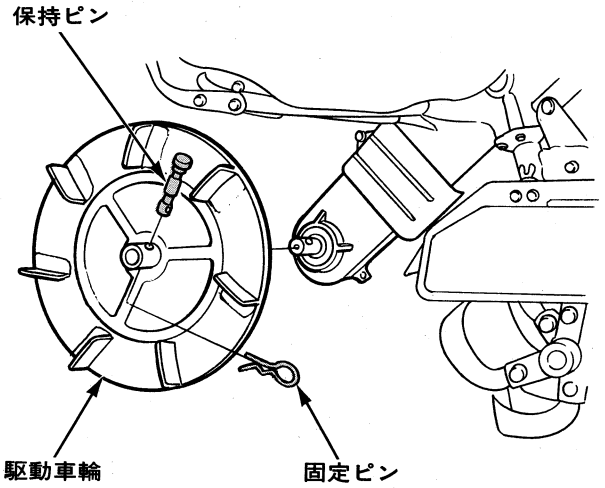
(K タイプ)

駆動車輪の取付け、取外しを行う時に取扱います。

注意
- 車輪を取外す時は、２人で行うか棒等で支え転倒に注意してください。
- 保持ピンを交換する場合は必ずホンダ純正部品を御使用ください。

本機には保持ピン３個、固定ピン３個同梱しています。

石かみ等で保持ピンが折れた時は同梱の保持ピン、固定ピンを使って図のように交換してください。



ロータリ切換えレバー

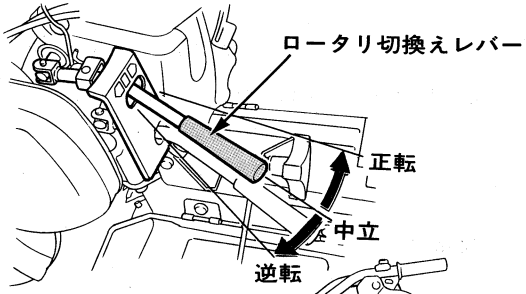
ロータリに動力を伝える時に操作します。

切換えレバー操作により**"正転""中立""逆転"**に切換えることが出来ます。

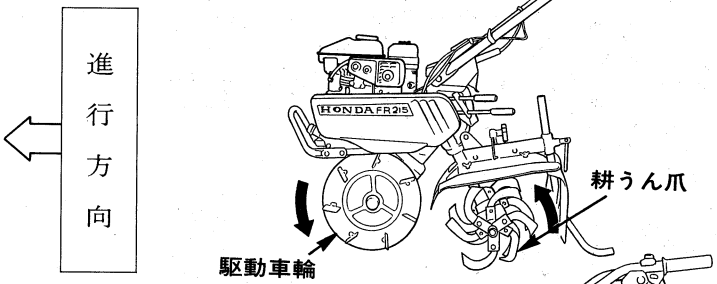
正転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立…耕うん爪は回転しません。

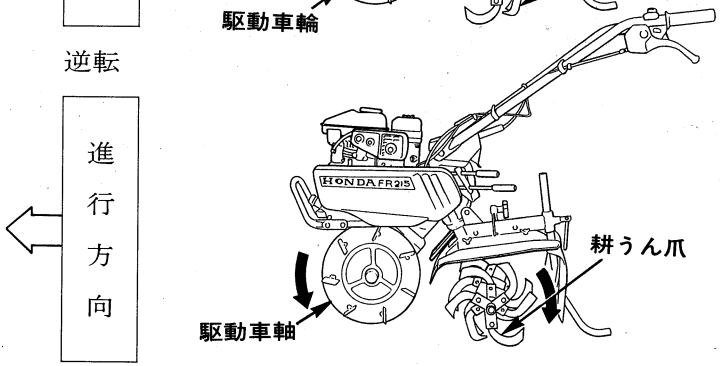
逆転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。



正転



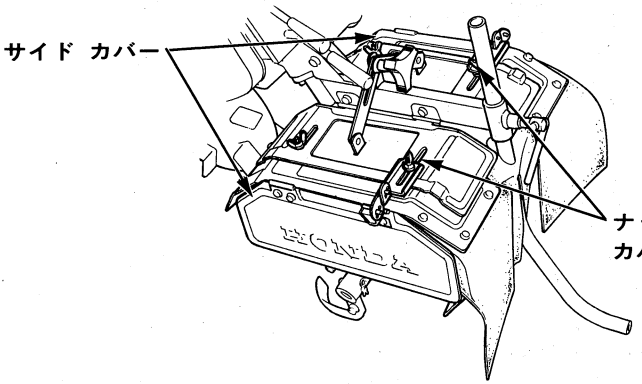
逆転



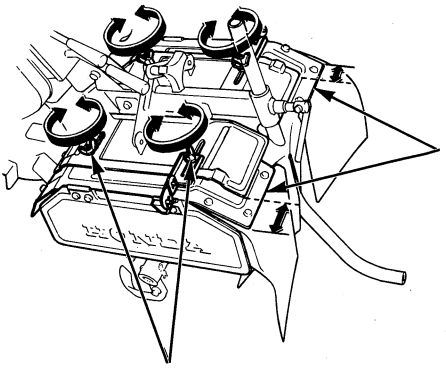
逆転で作業する場合はロータリ ホルダを左右入れ替え、フロント カバーを取り付けてください(26、21 頁参照)

ロータリ

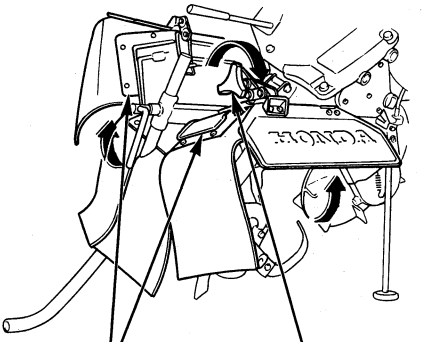
サイド カバーの開閉



ロータリ カバーの延長



ロータリ カバーの開閉



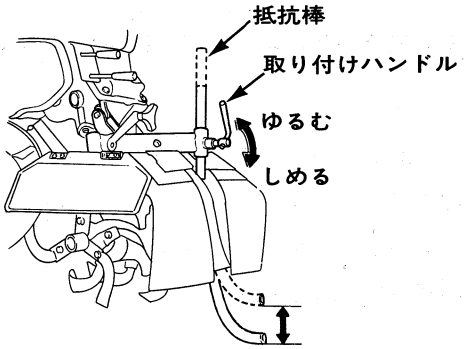
ロータリ カバー

ノブをゆるめて、ロータリ カバーを開閉します。

抵抗棒

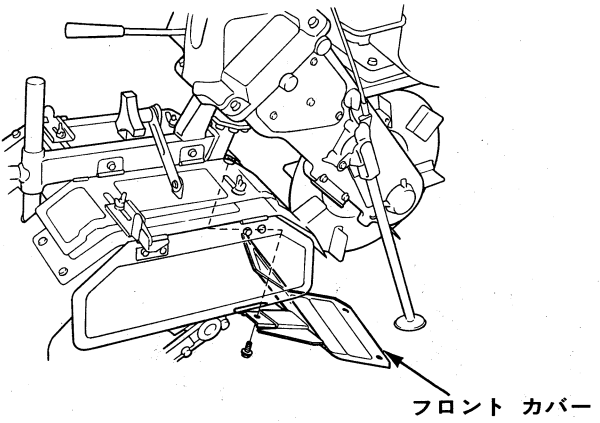
耕うん深さを調節する時抵抗棒を上下させて調節します。

抵抗棒を上下させるときは取り付けハンドルをゆるめ行います。



フロント カバー

逆転作業時は必ずフロント カバーを取り付けて作業してください。



注意 正転作業をする時は、フロント カバーを取り外して作業してください。

耕うん幅

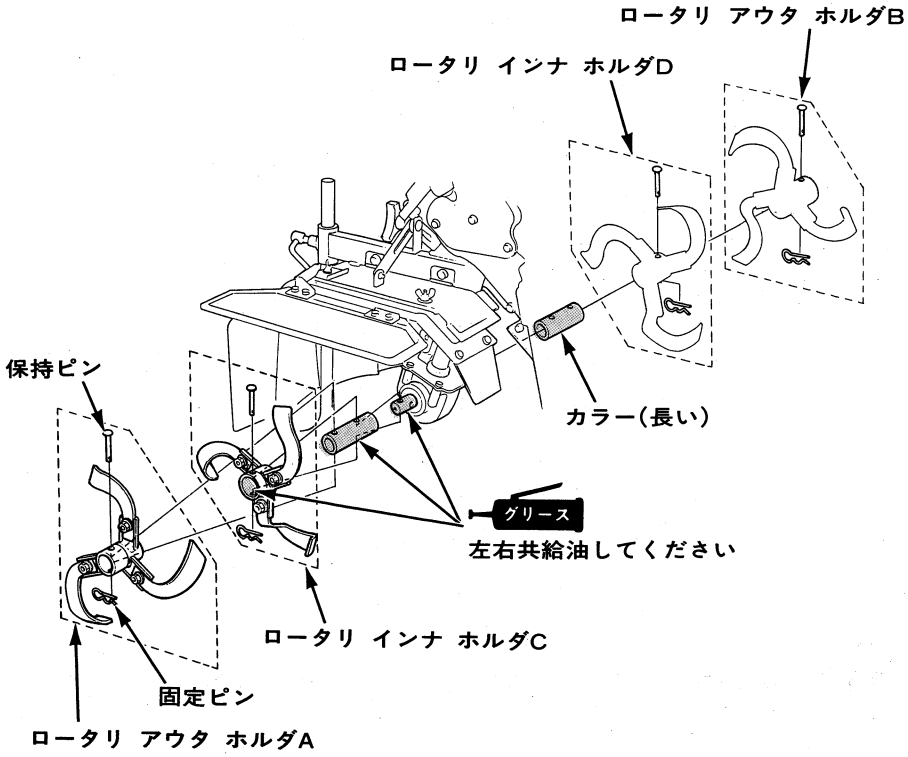
(K タイプ)

ロータリは下図のような取り付け組合せにより耕うん幅を変えることができます。

注意 保持ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向から固定ピンを差し込んでください。

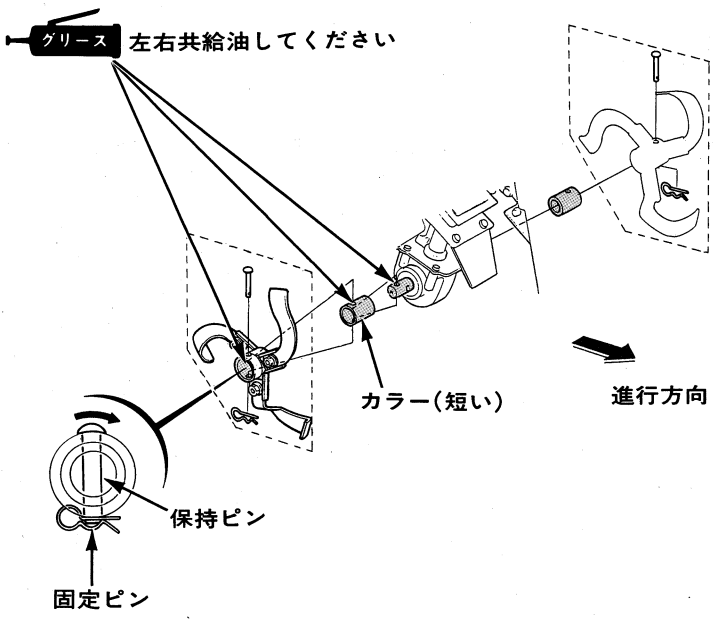
● ロータリ アウタ ホルダを取り付ける時はホルダ位置をロータリ インナ ホルダと 60°位相をずらして取り付けてください。

・その時ロータリ アウタ ホルダⒶとⒷ、ロータリ インナ ホルダⒸとⒹの耕うん爪は左右同時打ちになるように取り付ける。



●ロータリ インナ ホルダを左右に取り付けます。

・その時短い方のカラーを使用してください。



耕うん爪の外爪と内爪

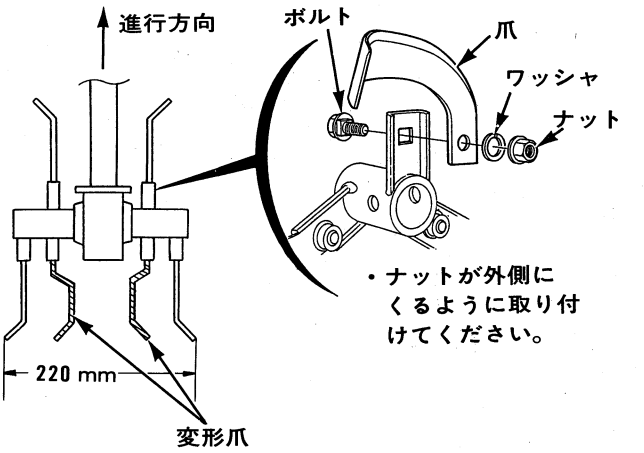
耕うん爪の取り付けは外爪と内爪の２種類あります。

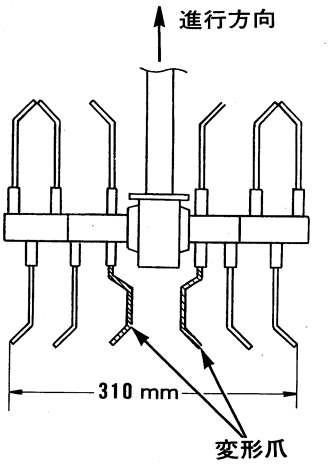
・ロータリ インナ ホルダとロータリ アウタ ホルダの取り付けは 22、23 頁参照ください。

・下図のようにそれぞれの方向に爪を取り付けてください。

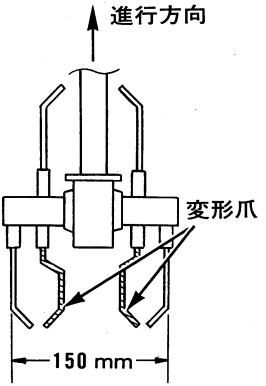
注意　ボルト、ワッシャ、ナットは常に同一方向から取り付けます。

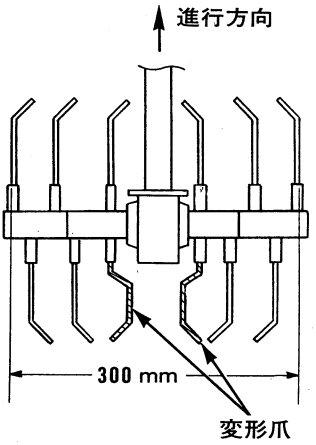
外爪





内爪

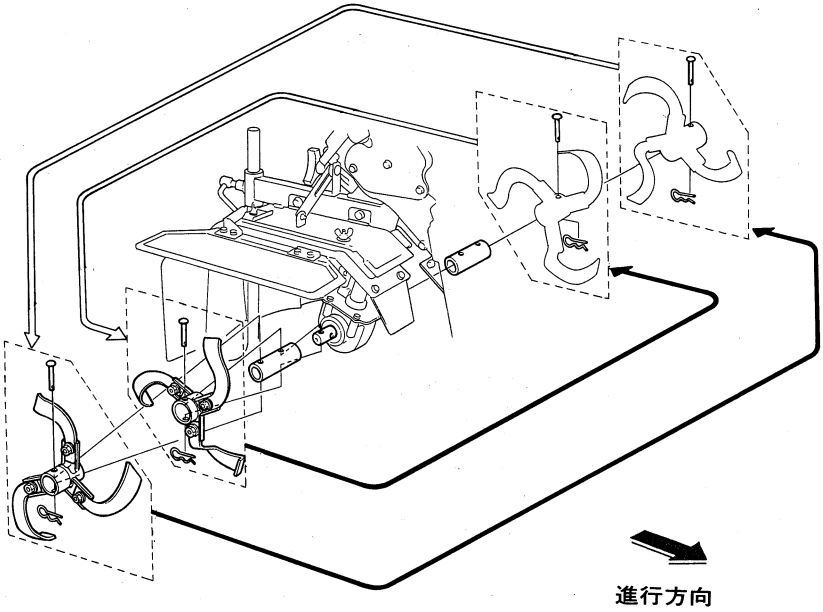




逆転時のロータリ ホルダ取り付け

下図は正転時を基本とし、逆転時の取り付け方を矢印で表わしています。
左右のロータリ ホルダを入れ替えて取り付けてください。

● ロータリ切換えレバーの操作で正転、逆転の作業ができます。



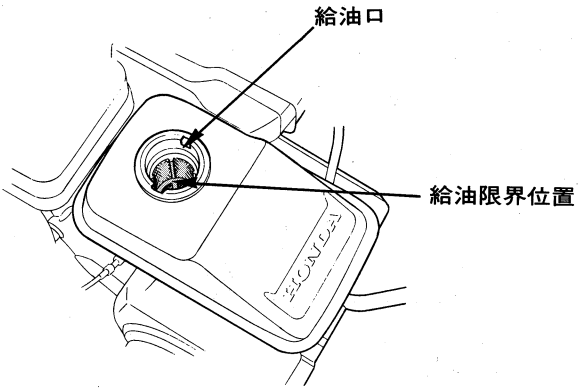
エンジンをかける前に点検しましょう

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行ってください。

ガソリンの点検

点検

エンジンを水平にし燃料給油キャップを外し、すくない場合は補給してください。



補給

使用ガソリン：無鉛(レギュラーガソリン)

タンク容量：1.4ℓ(口元まで)、1.0ℓ(給油限界位置)

・キャップを外し、給油口の給油限界位置まで補給してください。

・給油限界位置以上では本機前傾時、傾斜作業時にタンクキャップからガソリンが洩れることがあります。

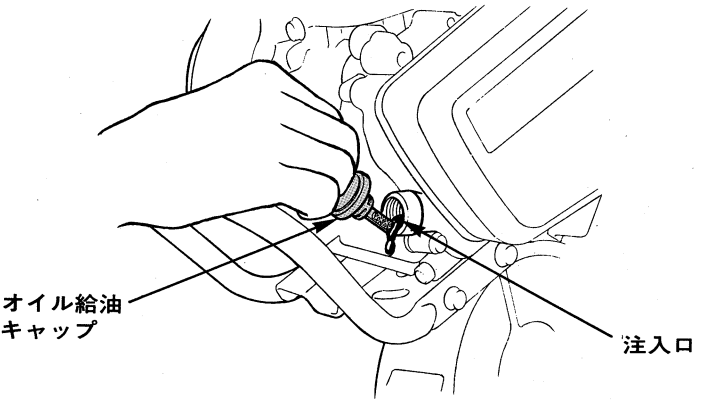
・キャップは補給後完全にはめ込みいっぱいにまわしてください。

注意
・火気厳禁
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・本機に貼られている注意ステッカーにしたがってください。

エンジン オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



補給

・指定オイル：ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE 30)、ウルトラ-U(2輪車用)またはAPI分類SE級相当のエンジン オイル

オイル容量：0.45 ℓ

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。

・汚れや変色が著しい場合は交換してください(交換時期、方法は46頁参照)

補給後、キャップを手で完全に締付けてください。

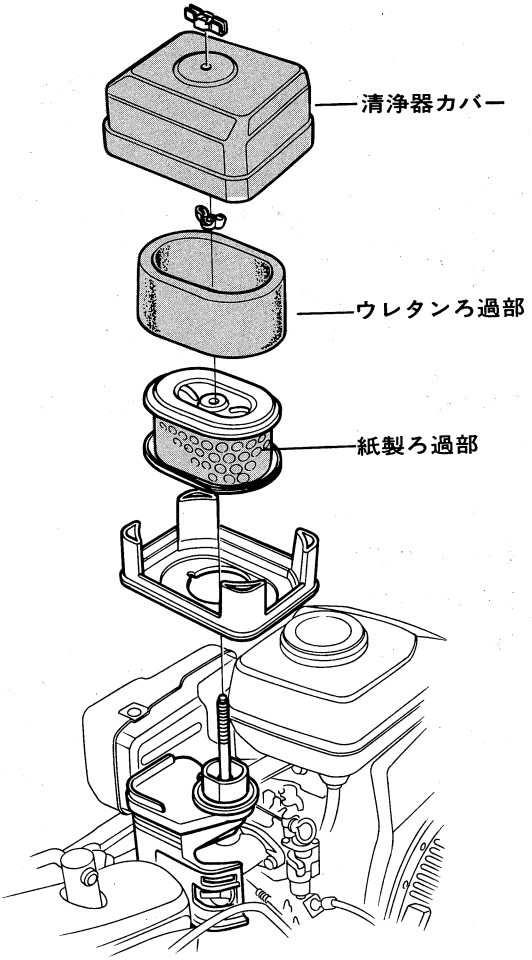
注意

- 極寒時で使用する場合は、ウルトラ-U(2輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE 10W-30エンジン オイルをご使用ください。
- 火気厳禁
- 本機は平坦な場所に置いてください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付がゆるいとオイルが洩れることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)の点検

空気清浄器カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。

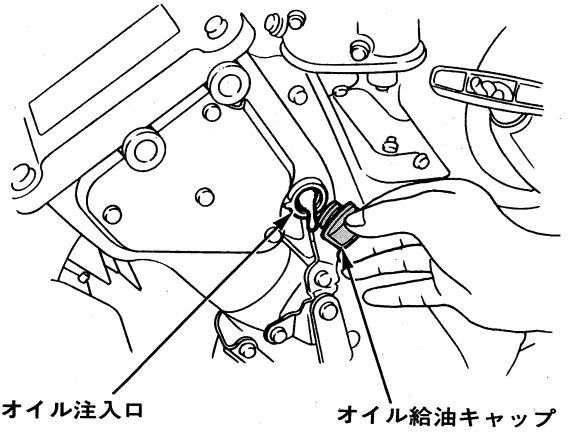
汚れている場合は清掃してください。(清掃時期、方法は 48 頁参照)



変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。

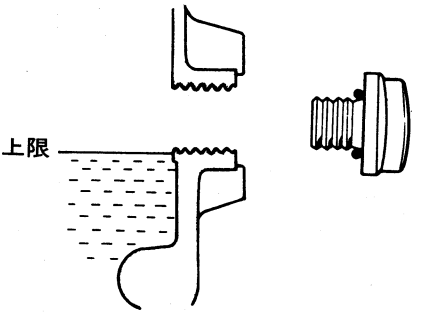


補給

使用オイル：新しいエンジン オイル

オイル容量：1.5 ℓ（K タイプ）
1.7 ℓ（LA タイプ）

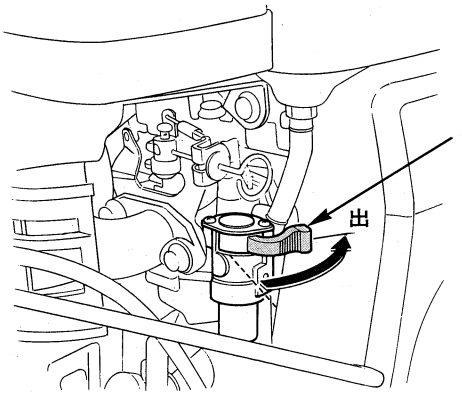
・給油キャップを外し、口元まで補給してください。
・補給後、キャップは完全に締付けてください。



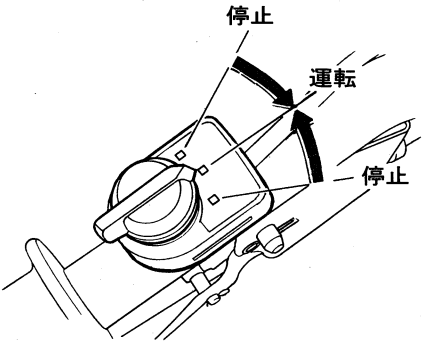
エンジンのかけかた

★クラッチ レバー"切"、変速レバーとロータリ切換レバーが"中立"になっているか確認してからエンジンをかけてください。

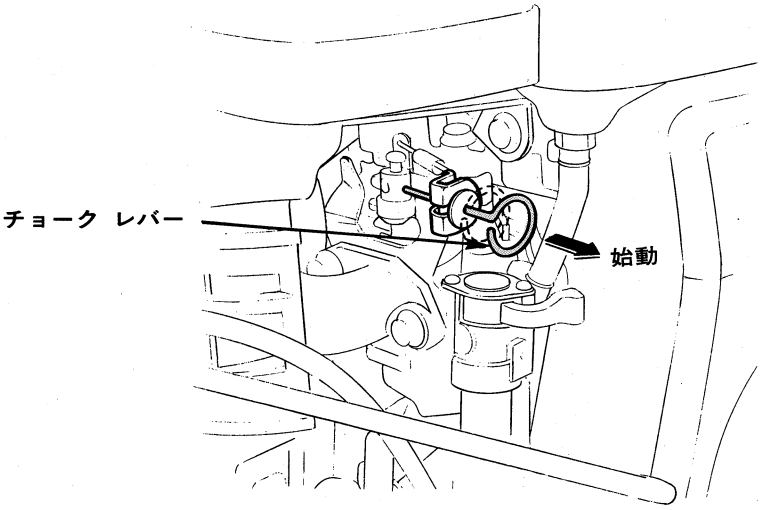
1.燃料コック レバーを**"出"**に合わせます。



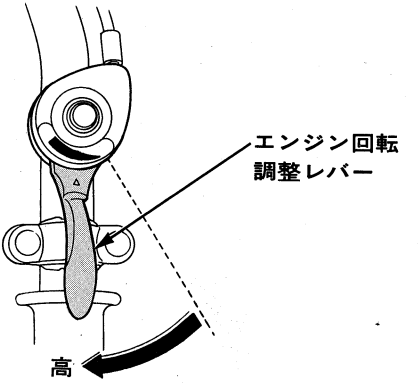
2.エンジン スイッチを**"運転"**に合わせます。



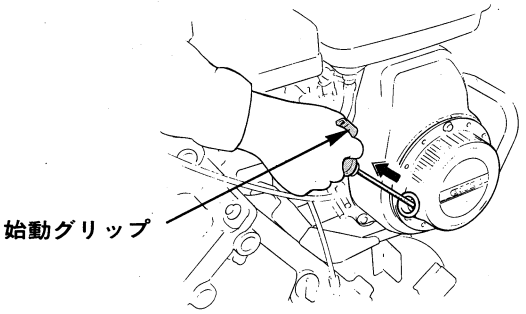
3.寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク レバーを**"始動"**の位置にします。



4.エンジン回転調整レバーを**"高"**に合わせます。



5.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。



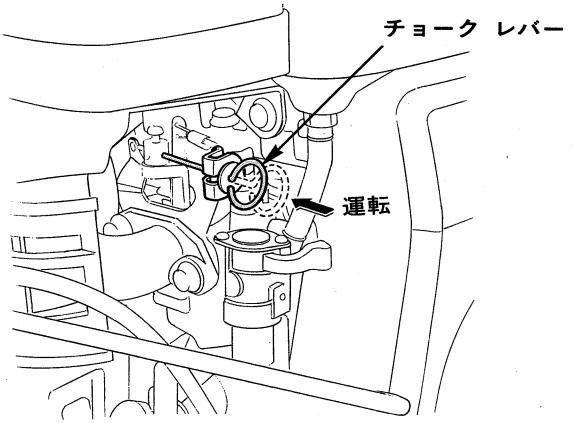
注意

・グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
・運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

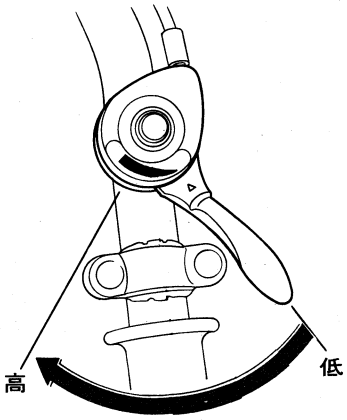
始　動

6.(始動後) 2 ～ 3 分間暖機運転を行います。

チョーク レバーを操作(始動の位置)したときは、エンジン回転が安定することを確認しながら**"運転"**の位置に戻します。



7.レバーを**"高"**方向にまわしてエンジン回転を上げます。



運　転　操　作　の　し　か　た

★安全な作業を行うために、十分に理解して行ってください。

"ロータリ"

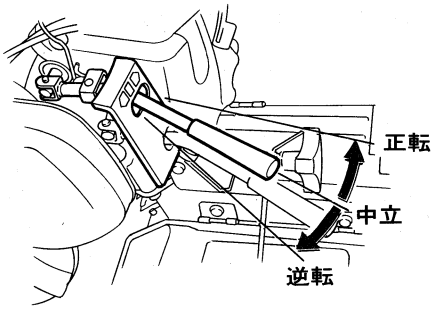
1.ロータリ切換えレバー

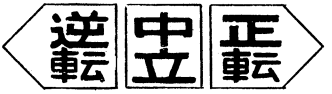
・切換レバー操作により**"正転""中立""逆転"**に切換えることが出来ます。

正転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立…耕うん爪は回転しません。

逆転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。



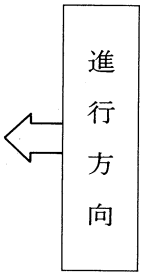


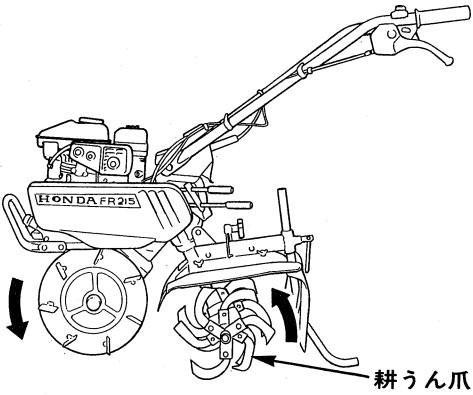
・切換えレバーの操作を行う時は必ず本機のクラッチレバーを**"切"**にしてください。

・操作がスムーズにいかない時は本機の変速レバーを中立にし、クラッチレバーを入にして少し動かし、クラッチを切にしてもう一度操作してください。

注意　ロータリを持ち上げて反転する場合は必ずロータリ切換えレバーを"中立"にし、ロータリが停止してから反転してください。

正転



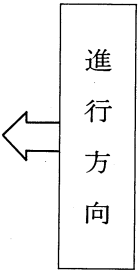


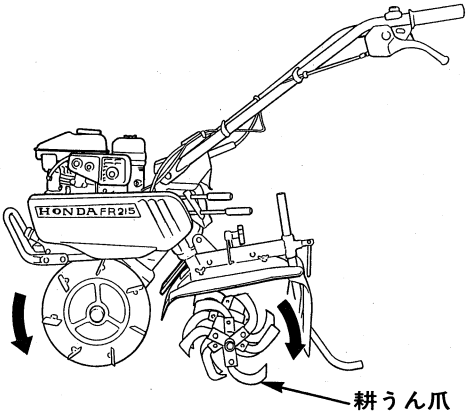
ロータリ切換えレバーを**"正転"から"逆転"、"逆転"から"正転"**へ切換えて作業を行う時は左右のロータリ ホルダを入れ換えてください(26 頁参照)。

注意

- 正転作業をする時はフロント カバーを取り外して作業してください(21 頁参照)。
- 正転作業の時に逆転へ逆転作業の時に正転へレバーを切換えないでください。機体が飛び出す恐れがあります。

逆転





"変速"

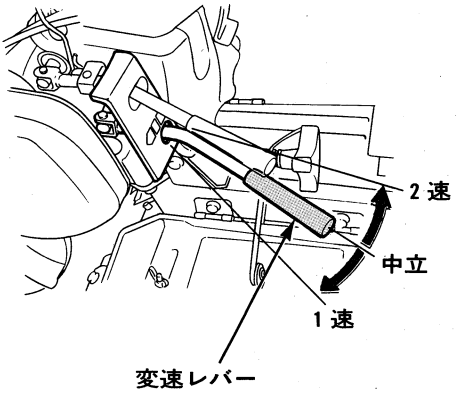
2.変速レバー

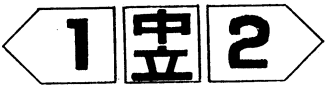
速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

変速の要領

1)変速レバーは、必ずクラッチを切ってから操作します。

2)変速レバーが作動しにくい時にはいったん**"中立"**に戻し、クラッチを入れて少し動かし、クラッチを切りもう一度操作します。





変速表　〔エンジン回転 3600 rpm 時〕

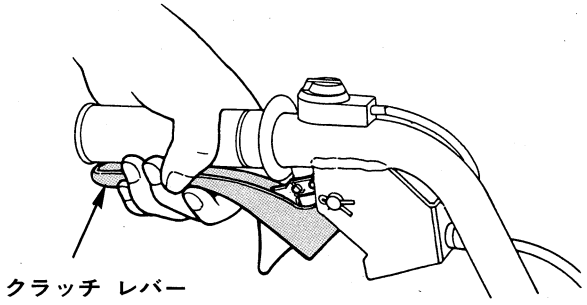
	Kタイプ	Lタイプ
変速位置	車軸回転数(rpm)	
1	32.0	20.7
2	63.3	38.2

"運転"

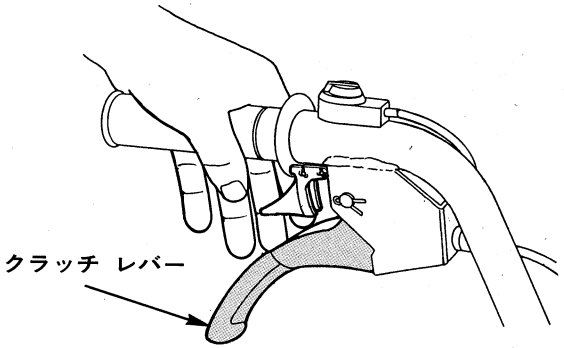
3.クラッチ レバー

クラッチ レバーを操作することにより、本機の走行及び停止が行なえます。

レバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



レバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。



- クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行いましょう。
- 急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりすることがあります。

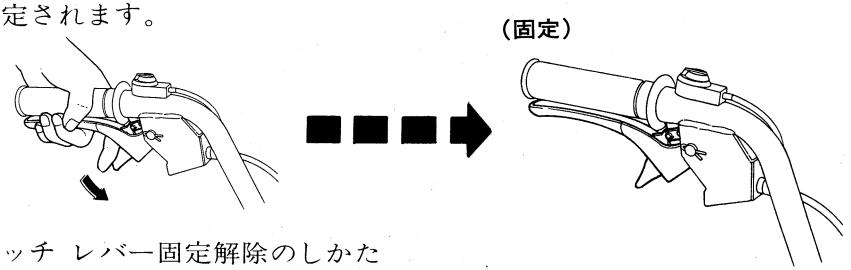
3.-1 固定レバー

固定レバーを操作することにより、クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。

固定レバーを使用する場合は十分クラッチ操作に慣れてから、又広い耕地及び身近に障害物のない場所で使用してください。

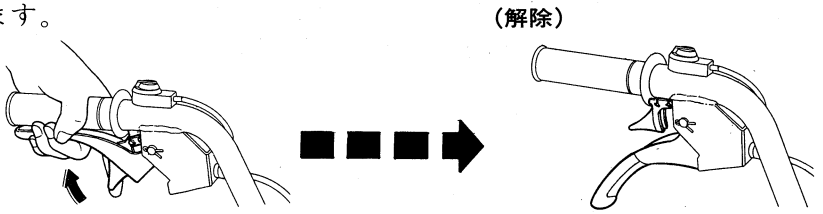
● クラッチ レバー固定のしかた

クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すとクラッチ レバーは固定されます。



● クラッチ レバー固定解除のしかた

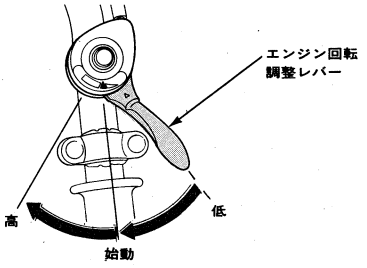
解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、クラッチ レバーを放します。



注意
・固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
・固定レバーを使用し作業を行なう時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。

4.エンジン回転調整レバー

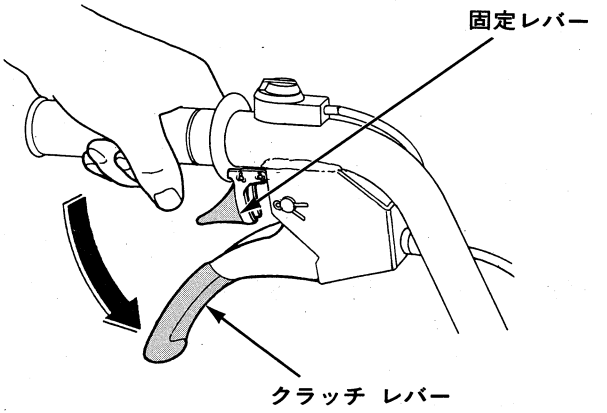
レバーを"高"方向にまわし、エンジン回転を上げます。



エンジンのとめかた

1.クラッチ レバーを"**切**"にします。

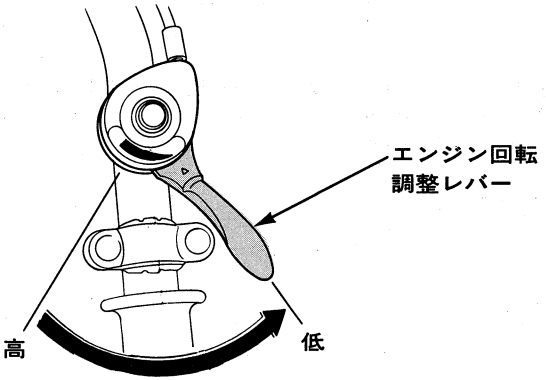
・クラッチ レバーが固定されている場合は固定レバーを引いてからクラッチ レバーをはなして"**切**"にします。



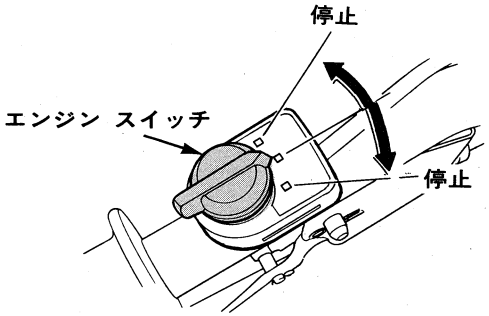
2.変速レバーを"**中立**"にします。

3.ロータリ切換レバーを"**中立**"にします。

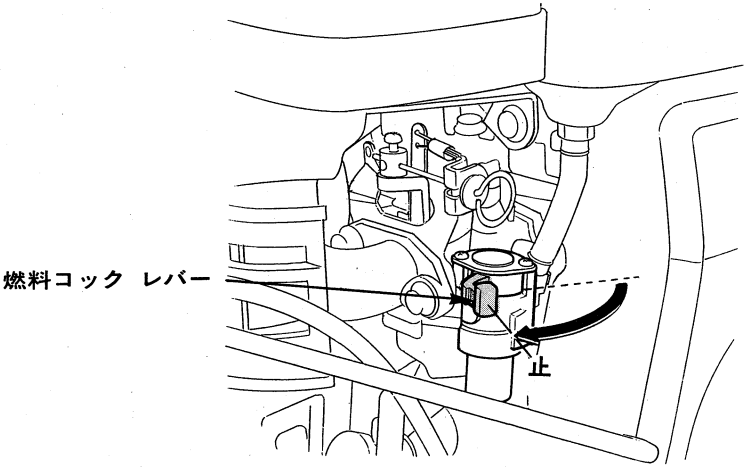
4.エンジン回転調整レバーを"**低**"の位置に戻します。



5.エンジン スイッチを"**停止**"に合わせます。



6.燃料コック レバーを"**止**"に合わせます。



定期手入れを行いましょう

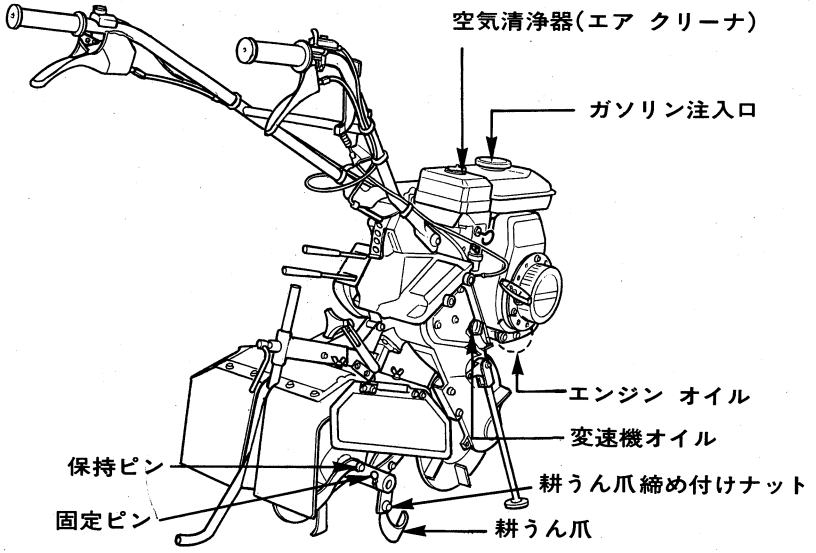
日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- エンジン オイル……規定量入っているか。汚れていないか。洩れはないか。
- 変速機オイル……規定量入っているか。洩れはないか。
- 空気清浄器(エア クリーナ)……汚れていないか。
- 耕うん爪……汚れていないか。異物をかみ込んでいないか。ゆるみ、ガタはないか。(K タイプ)

注意 耕うん爪締め付けナットは使用初期に増し締めを必ず行ってください。

- 保持ピン、固定ピン……駆動車輪・ロータリのピンの抜け、付け忘れがないか。
- ガソリン……残量
- 異常箇所……前日悪かった所
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラーをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目＼点検時間	作業前点検	初回 20時間目	50時間 運転毎	100時間 運転毎	300時間 運転毎又は 1年に1回
エンジン オイル〈注3〉 点検	○				
エンジン オイル〈注3〉 交換		○		○	
変速機オイル 点検	○				
空気清浄器（エア クリーナ） 点検	○				
空気清浄器（エア クリーナ） 清掃			○〈注1〉		
駆動ベルト 点検 調整		○		○	
燃料ろ過カップ 清掃				○	
点火プラグ 点検 清掃				○	
エンジン回転調整ワイヤ 点検 調整					○
クラッチ ワイヤ 点検 調整		○		○	
ハンドル高さ調整レバー ワイヤ 点検 調整					○
スタンド ワイヤ 点検 調整					○
吸入・排気弁間隙 点検 調整					○〈注2〉
燃焼室（バルブ摺合せを含む） 清掃					○〈注2〉
燃料タンク、燃料ろ過網 清掃					○〈注2〉
燃料チューブ 交換	3年毎 〈注2〉				

〈注1〉ほこりの多いところで使用した場合、空気清浄器の清掃は、10時間毎または1日1回

〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

〈注3〉エンジン オイルの交換……稼動期前にも必ず交換してください。

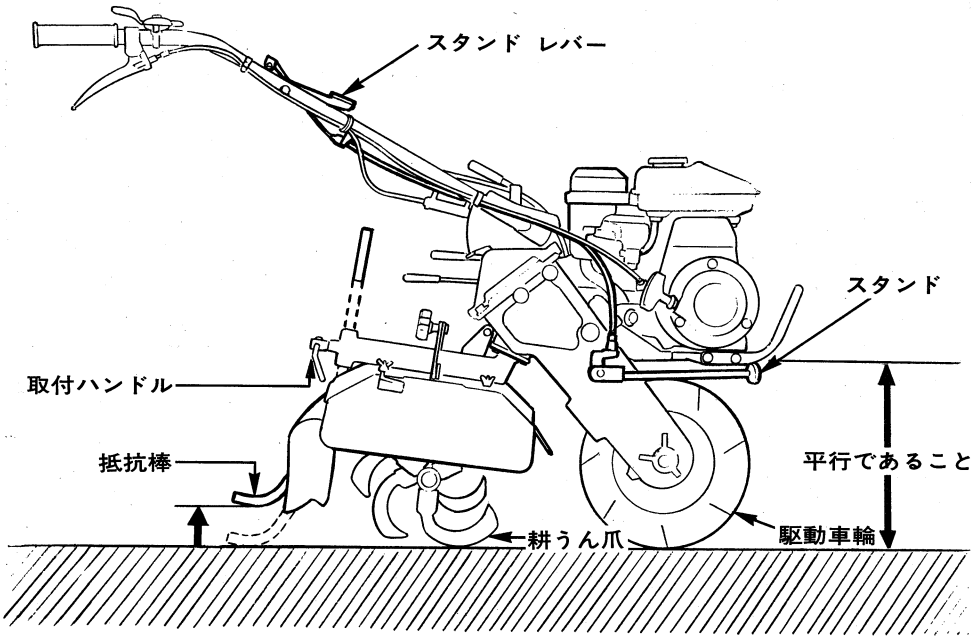
やさしい点検・整備

注意
・点検、整備を行なう時は、その前にエンジンを止め、エンジン スイッチを“停止”の位置にしてください。
・エンジンが偶然かかることのないように点火プラグのキャップを外してください。

●エンジン オイル、変速機オイルの点検とエンジン オイルの交換（27頁、28頁、46頁、47頁参照）時は下図のように平坦な場所でエンジンをとめ、行ってください。

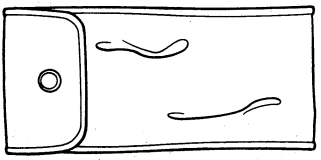
取付ハンドルをゆるめ抵抗棒を上げ、耕うん爪と駆動車輪が接地する状態にします。

（その他の点検、整備は平坦な場所でスタンド レバーを**“停車時”**位置にし、スタンドが停車の位置になっていることを確認の後行なってください。



携帯工具

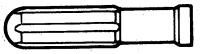
工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



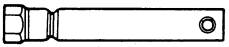
工具袋



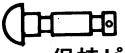
⊕⊖ドライバ



グリップ



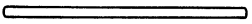
ボックス レンチ



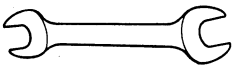
保持ピン(3個)
〔駆動車輪用〕



固定ピン(3個)
〔駆動車輪用〕



ハンドル バー



両口スパナ(14×17)

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20 時間目、以後：100 時間運転毎

《指定オイル》

ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE 30)、ウルトラ-U(2 輪車用)または API 分類 SE 級相当エンジン オイル

注意

・極寒時で使用する場合は、ウルトラーU(2 輪車用) または API 分類 SE 級相当の SAEIOW－30 エンジン オイルをご使用ください。

《規定量》 0.45 ℓ

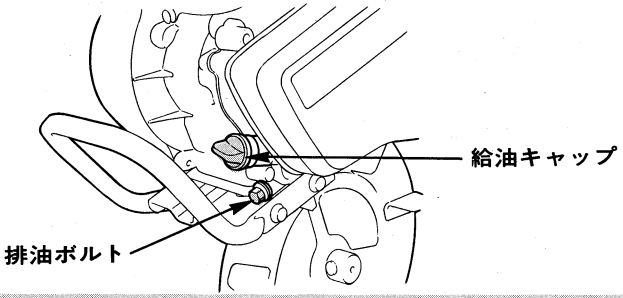
《交換》

1.オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。エンジンが暖かいときに行うと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。

2.排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ バレルに確実に締付けます。

3.注入口の口元まで新しいオイルを注入します。

4.注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。



注意

・エンジン停止直後は、エンジン本体、油温が高くなっていますので、やけどをしないよう注意してください。
・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
・必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。

変速機オイルの点検

変速機オイルの量が少ないと変速機各部の摩耗を早めます。

《使用オイル》

新しいエンジン オイル

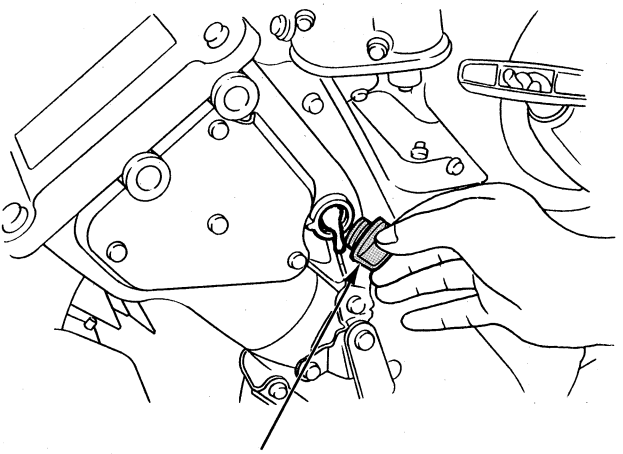
《規定量》 **Kタイプ** **1.5 ℓ**

LA タイプ **1.7 ℓ**

《補給》

・変速機オイルは特に交換不要ですが少ない時には新しいオイルを口元まで補給します。

・変速機オイルの点検は仕業点検毎に行ってください。



注意 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。

空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

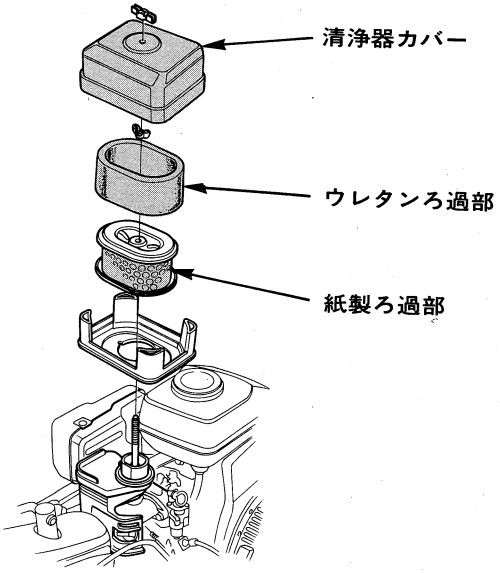
50 時間運転毎

ほこりの多い場所で使用した場合は 10 時間毎または 1 日 1 回清掃してください。

1.締付ナットをゆるめ、空気清浄器カバーを取外します。

2.ウレタンのろ過部は洗油で洗い、よく絞って乾かします。乾燥後ろ過部(ウレタン)をエンジン オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。

3.紙製ろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



注意

- 火気厳禁
- 空気清浄器カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- 空気清浄器カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け不良をすると、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、火花すきまが不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《清掃時期》

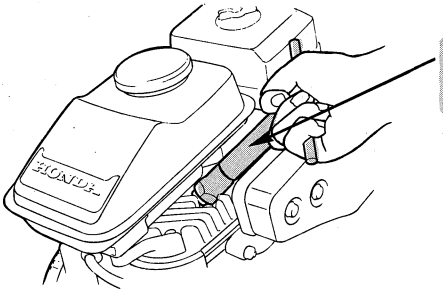
100 時間運転毎

《清掃》

1.プラグ レンチで点火プラグを取外します。

2.プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。販売店にて行ってください。

・プラグ クリーナが無いときは、ワイヤー ブラシで汚れを落してください。



使用工具 ・プラグ レンチ

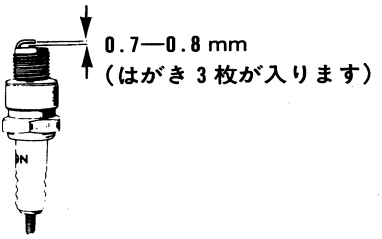
《調整》

・側方電極をつめ、火花すきまを 0.7－0.8 mm に調整します。

《標準プラグ》

BM—4A(NGK)

NDW14M—U(ND)



注意

・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。

・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

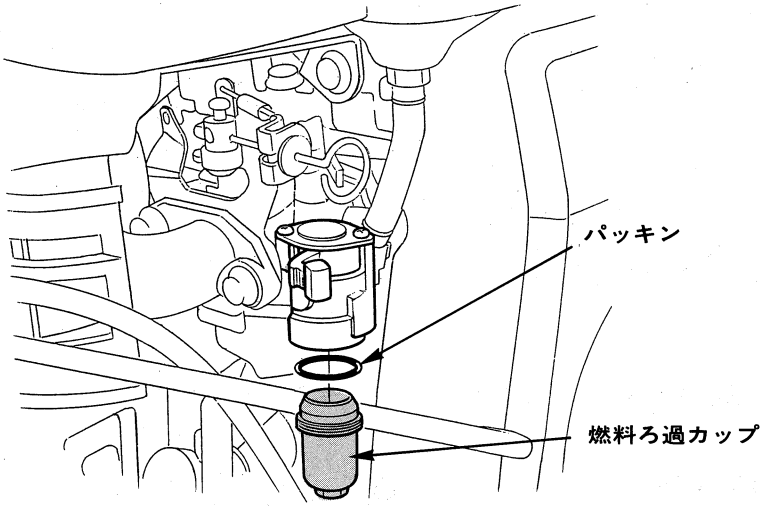
100 時間運転毎

1.燃料コック レバーを**"止"**にします。

2.燃料ろ過カップを取外します。

3.燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取り除きます。

4.清掃後、ガソリン洩れのないよう締付ナットを確実に締付けてください。



注意 ・火気厳禁。

エンジン回転調整ワイヤの調整

エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

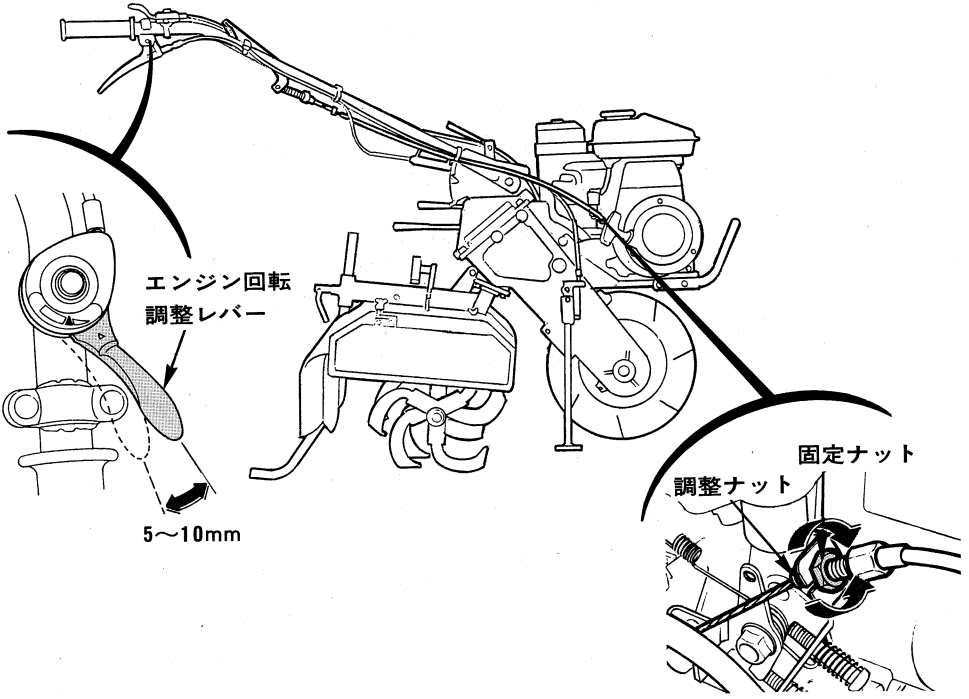
300 時間運転毎または 1 年 1 回

《調整》

1.エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で 5 ～10 mm になるように調整します。

2.調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。

3.調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



ハンドル高さ調整 ワイヤの調整

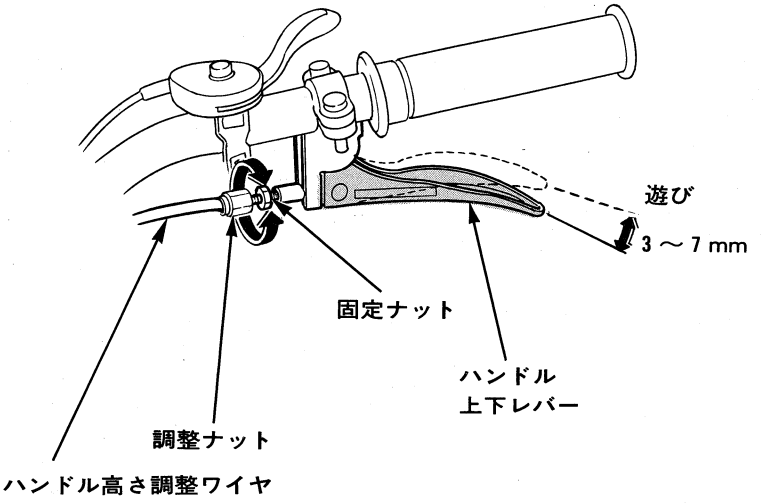
ハンドル高さ調整 ワイヤの調整が完全でないと、作業中にハンドルが動き思わぬ事故になります。

《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

《調整》

1. ハンドル上下レバーの遊びが、レバー先端で 3 ～ 7 mm になるように調整します。
2. 調整は、固定ナットとゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。



スタンド レバー ワイヤの調整

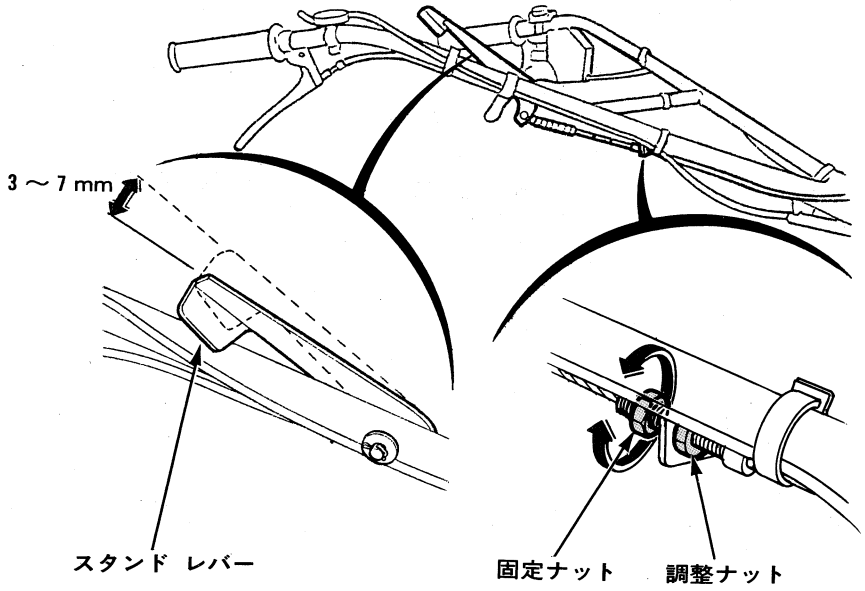
調整は平坦な場所でエンジンを水平に安定させ行ってください。

《調整時期》

300 時間運転毎または 1 年 1 回

《調整》

1. スタンド レバーを**"停車時"**の位置にし、レバー先端で 3 ～ 7 mm になるように調整します。
2. 調整は固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締め付けてください。



クラッチ ワイヤの調整

クラッチ ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

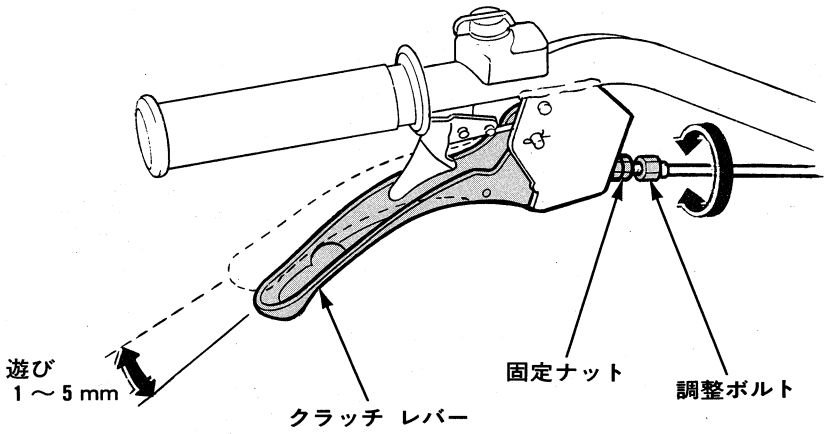
《調整時期》初回：20 時間目、以後：100 時間運転毎

《調整》

1.クラッチ レバーを離した状態、または固定レバー**"解除"**の状態(クラッチが**"切"**の状態)で、レバー先端の遊びが 1 ～ 5 mm になるように調整します。

> **注意** 固定レバーは"解除"にしてください。
> もし"解除"になっていないときは、固定レバーを手前に引きクラッチ レバーをはなします。(P.38)

調整は固定ナットをゆるめ調整ボルトで行います。



2.調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

> **注意** ・クラッチ ワイヤー調整時には、必ずエンジンを止めてください。突然車軸が回転することがあります。

駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

《調整時期》

初回：20 時間目、以後：100 時間運転毎

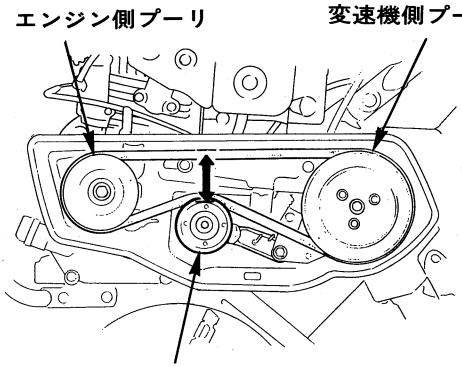
1.クラッチ ワイヤを調整します。(P.54)

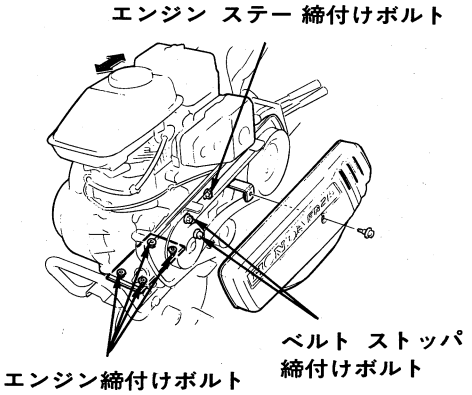
2.ベルト カバーを取り外します。

3.クラッチ レバーを握った状態、または固定レバー使用の状態(クラッチが**"入"**の状態)で、テンショナ部のベルト間隔が 50～55 mm になるように調整します。

4.調整はエンジン ステイ締め付けボルト、エンジン締め付けボルト、ベルトストッパをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。

5.調整後、ボルトは確実に締め付けてください。

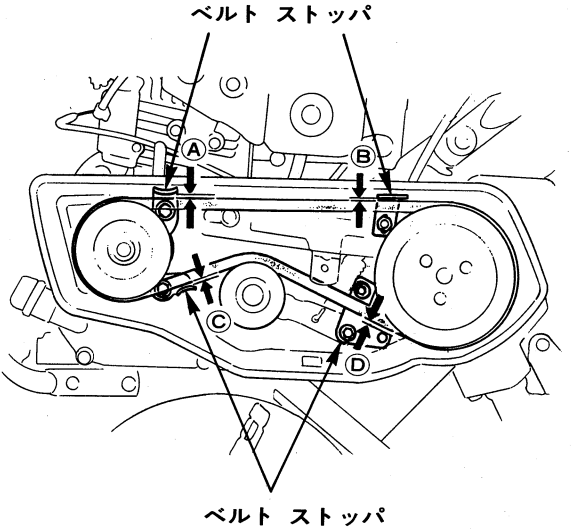




注意

- 調整時エンジン側プーリーの面と変速機側プーリーの面を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。
- 調整後、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生します。

6.ベルトとベルト ストッパーのすき間を図のように調整します。



A： 1～3 mm　　B： 1～3 mm　　C： 9～13 mm　　D： 4～8 mm

7.調整はストッパ締め付けボルトをゆるめ、ストッパを動かして行います。
8.調整後、ボルトは確実に締め付けてください。
9.ベルト カバーを取り付けます。

注意

・ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

1.エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外します。
2.ティラー各部の清掃を行います。
3.エンジン オイルを交換します。(交換方法は 46 頁参照)
4.空気清浄器を清掃します。(清掃方法は 48 頁参照)
5.気化器(キャブレータ)のドレン ボルトをゆるめ気化器内及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。
6.始動グリップを重くなるまで引き、プーリーのマークとファン カバーのマークを合わせます。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
7.クラツチ レバーを**"切"**にします。
8.ロータリ切換レバーを**"中立"**にします。
9.燃料コックを必ず**"止"**にする。

注意
・燃料を抜く時は火気厳禁。
・風通しの良い場所で行ってください。
・抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは注入口、口元までありますか？
- 燃料ろ過カップ部の中に水やゴミが入っていませんか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはウエスで完全にふきとってから行ってください。

プラグを取外し、プラグ キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。）、エンジン スイッチを**"運転"**の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

注意　・この点検は風通しのよい場所で行ってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- クラッチ ワイヤーの調整方法が取扱説明書通りですか？

～～～～～～少し時間をおいて
もう一度確かめましょう～～～～～～

故障の修理
お買いあげ販売店へお申しつけください。

主 要 諸 元

名称			FR215	
型式			FAB	
区分			K	LA
機体寸法	全長	(mm)	1,260	(1,300)
	全幅	(mm)	615	(615)
	全高	(mm)	910	(845)
重量		(kg)	44.0	(44.0)
エンジン	名称		ホンダG100K1	
	形式		空冷4サイクル1気筒25°傾斜ガソリン	
	総排気量	(cc)	83	
	定格出力/回転速度	(ps/rpm)	1.5/3,600(最大2.2/4,200)	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量	(ℓ)	1.4(口元まで)、1.0(給油限界位置)	
	点火方式		トランジスタ マグネト点火	
	始動方式		リコイル スタータ	
クラッチ方式			ベルト テンション	
変速段数			前進 2段	
ハンドルスイング			最大左右各30°(3段階10°、20°、30°)	
ハンドル高さ調整			6段	
			600～1,100mm	460～980mm
エンジンオイル容量		(ℓ)	0.45	
安全鑑定適合番号			申請中	

・機体寸法は駆動車輪 ϕ310、ロータリ ϕ280の装着時です。

・全長、全高はハンドル上下レバーが最上段より3段目の数値です。

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

メ　モ



HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2 1 1

30745601
00X30-745-6010
客
ホサ M4008701